

## 謝意

私は、演劇やテレビ番組、あるいは映画のように、本も合同の努力からなることを学びました。この機会を使って、この本に光をもたらすように助力してくれた人々の名前を挙げ感謝するのを喜びとします。

第一に、私の最も心からの深い感謝の念を私の友人であり編集者である、カール・ウェバーへ捧げます。彼の確信、人との繋がり、好奇心がこの本を可能にしたのです。この三つの繋がりなければ、私もまた単に出版社を、出来れば私の本が他のハリウッド回顧録「そして私はXと寝ました」とは違うことを理解してくれる出版社を、探す他の作家と同じであったでしょう。カールが私を知るため何回か事前に会議をし、私の主な資料（40年も前の物も）を詳細に調べた後、「これは題材の山だ」そして「ここに間違いなく本がある。」と結論づけました。今、私はカールが正しかったことが分かります。彼の文学的な思考と理にかなった判断がこの本が提供する価値全てに莫大に貢献しており、私は次のプロジェクトを彼とまた一緒にすることを楽しみにしています。

私は仕事熱心で建設的な著作権代理人のリン・ラビノフに感謝したいと思います、かの書は私と本のプロジェクトに仕えてくれただけでなく、私のユーモアのセンスも受け入れてくれました。リンは私たちにセントマーティンの素晴

らしい出版チームを紹介してくれて、未熟な原稿から本に完成させるまでの複雑な変遷をスムーズにしてくれました。

セイントマーティンでは、名前を挙げなくてはならない人々が沢山居ます。：トーマス・L・ダン、私達の出版社で私達がこの本で達成しようと試みていることを理解し、巧みに支援してくれました。；マーク・マッコースリン、私達の熟練した原稿整理編集者；メグ・ドリスレーン、私達の才能溢れる制作編集者；そして素晴らしい宣伝・市場開拓チームが私のはじめての全面的な商業出版への進出を、楽しい、魅惑的な経験にしてくれました。心からのお礼をみなさん致します。

私の最も心からの喝采を私のとても良き友人、作家、そして海外通信員であるピーター・エバンズに送ります、彼はアリストテレス・オナシスの人生を記録し、「ネメシス」で彼のロバート・F・ケネディ殺害への関与を明らかにしました。この悲劇的な出来事について、および私のささやかな関わりについての、私の章はピーター・エバンズの入念な調査と鋭敏な洞察力に大いによるものです。

故フィリップ・H・メアンソン博士に感謝します、彼の著作「ロバート・F・エネディ暗殺：陰謀ともみ消し工作の新たな真実」はあの悲惨な事件の最も素晴らしい調査の一つです、そして、私の友人達ロバート・ジョリング博士、前アメリカ法医学学会会長、とフィリップ・ヴァン・プラークに感謝します、彼らはその著作「簡単明瞭な事件」を私が引用することを許可してくれました、彼らの研究はRFK暗殺に関連する最も最近の証拠を提示してくれました。

そしてヘレーネ・ゲイレットにも特に感謝をいたします、彼女は2007年の晩秋に、アリストテレス・オナシスとRFK殺害について彼女が知っているこ

とを話すために私に会ってくれました。歴史家は永遠に彼女に義理があるでしょう—私もそうです。

とても素晴らしい「マン・フロム・アングルブック」を書いたジョン・ヘイトランドに感謝します、彼の本は私自身のわくわくする4年間への主たるガイドでした。そしてマイケル・カックマンに感謝します、彼の著作「シティズンスパイ：テレビジョン、スパイ活動、そして冷戦文化」は、映画でもそうでない世界でもその両方で、50年代そして60年代がどのようなであったか、を思い出させる素晴らしい（そして有益な）ものです。

「ジ・アザー・チェーホフ」の作家、チャールズ・マロウィッツに感謝します、彼の本は私に、伝説的な演劇の理論家であるミハエル・チェーホフへの、私の沢山の記憶を具体化させてくれました。そして、トレーシー・スポッテスウッドに感謝します、彼女のBBCの見事なラジオ劇「ソロ・ビハインド・ジ・アイアンカーテン」は、あの1968年8月、ソ連がチェコスロバキアの「人間の顔をした社会主義」における試みを、破壊したの悲惨な数週間を、まるで彼女が個人的にその経験をしたかのように捉えました。

私の永遠なる感謝を、50年代初期からのロサンゼルス市立大学時代からの学友達、ジム・バトラーとジョン・ハケットに捧げます。ジムは1966年のインディアナポリスでの私の最初の反戦スピーチで使った「ライオンと子羊」の比喩を、そしてさらに多くのことを準備してくれました。ジョンは私の集めた山のように沢山の事実を、我々アメリカの東南アジアへの関与についての、見事な、感動的な、雄弁な非難へと変えてくれました。彼らの助けなくして、私とその反戦運動の代弁者となることはできなかったでしょう、そして私の人生における重要な役割を果たすことができなかったでしょう。

そして、たくさんの感謝を私の転写師でタイピストで、忍耐強くユーモア溢れるフィリス・トラベルに捧げます、彼女は私の数百ページにわたる手書き文字を判読し、原稿はついに「ある幸福な人生」として完成したのです。

最後に、私の最も大切な感謝を、いつも私の人生の冒険を分かち合い、本当に生きる価値のあるものにしてくれた、私の妻リンダへ捧げます。彼女は私の俳優キャリアが山の時も谷のときも常に、間違いなく私の支えになってくれ、私がこの本を書く事に時間を取られ、彼女と一緒に過ごせない時がしばしばあったここ数年も同様に支えてくれました。妻と私がこれから来る歳月に、更にもっと沢山の一緒に思い出の章を描く事ができることを願っています。